

「土砂災害について思うこと」

山形県 山形市立東小学校 3年 戸村 優衣

先日、大雨の後、川にたくさんの水が流れているのを見ました。水は茶色くにごっていて、今にも川からあふれそうでした。近ごろは、テレビのニュースでも大雨がふっておこった災害の事がよくとり上げられています。お父さんが働いている町でも、以前、大きなひ害にあったと教えてもらいました。

山形には、ぞう水が起こる可能性の高い河川が、50 ぐらいあるそうですが、その内の1つの川が大雨で、大はんらんをおこしたそうです。土砂くずれがおきたり、川から水があふれ出して、田んぼや畑がかん水し農作物が流されたり、家の中まで水が流れこんで来たり、さまざまなひ害がおこりました。また、土砂くずれによって水がにごり、じょう水できなくなったため、2日間くらいだん水して水道が使えなくなったそうです。たった数時間の雨で、こんなにたくさんの大きなひ害がおこるなんておどろきました。大変大きなひ害だったので、町の水道の仕事を担当していたお父さんは、2日間、家に帰って来れないほどでした。同じ町にすんでいる、85 才になるわたしのひいおばあちゃんも、大雨でこんなひ害にあったのは生まれてはじめてだったと言っていました。すいかをそだてていた農家の方はしゅうかくま近だったすいかが全部流されてしまったそうです。

「かわいそうだね。」

とわたしが言うと、お父さんは、

「でも、けがをした人や流された人がいなかったからよかったよ。」

と言っていました。

全国で大雨による土砂災害がおこっています。中には、山がくずれて家ごと流されてしまったり、生活に大きなえいきょうをあたえるような事もおこっています。自ぜんがおこす災害は、いつおきるかわかりません。土砂くずれをふせぐために山のしゃ面をコンクリートでかためたり、川のていぼうを高くしたりする工事が行われています。わたしたちのくらしの安全のためにも、とても大切な事だと思います。

これからは、自分や家族のためにも、ふだんから天気よほうなどにちゅう意し、生活していきたいと思いません。